

バイオを知る

くらしとバイオ LETTER 16

特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21

2019年4月号

活動報告



サイエンスアゴラ2018ワークショップ開催

11月11日、ステークホルダー会議「ゲノム編集野菜 食べますか？」というワークショップ（WS）を開きました。くらしとバイオプラザ21は「新しい育種技術の社会実装」というプロジェクトのメンバーとして、新しい育種技術の中のゲノム編集に関する情報提供や対話の場づくりを行ってきました。しかし、開発された作物がないところでの議論では、食経験のない食物への不安が先立ち、幅広いサイエンスコミュニケーションが進まないもどかしさがありました。そこで、消費者だけでなく、事業者などの立場に立って話しあうワークショップ「ステークホルダー会議」を企画しました。

当日は、筑波大学生命環境系 教授 大澤良氏による「ゲノム編集をふくむ育種に関するお話」、大阪大学大学院工学研究科教授 村中俊哉氏による「ゲノム編集を用いて研究開発されているソラニンのできないジャガイモ」に関する話題提供の後、ワークショップを行いました。食品としての安全性の考え方の方向性が定まり、消費者への啓発がよく行われた場合には、ソラニンのできないジャガイモを使いたい、食べるという意見を述べたグループの方が多くありました。最後に食生活ジャーナリストの会代表幹事 小島正美氏から、遺伝子組換えやゲノム編集などの技術を比較する表をつくって、理解を広め、透明性のある議論が重要であるというコメントをいただきました。



定例総会 記念講演会のお知らせ

昨今、ゲノム編集という言葉が新聞・TV等で散見され、同技術の活用について注目を集める中、バイオテクノロジーを取り巻く環境は刻々と変化しています。今回は、ニューズレター「日経バイオテク」や「日経バイオ年鑑」の編集長である橋本宗明氏に、研究開発動向、シーズ情報や行政施策、特許等の切り口でバイオ業界の現状と今後の展望について講演していただきます。

くらしとバイオプラザ21の会員以外の方でも講演会に参加可能です。みなさま、お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

日時 : 2019年5月16日 (木) 15時30分～16時30分

会場 : 銀座フェニックスプラザ

講師 : 日経バイオテク編集長 橋本宗明氏

タイトル : 「バイオ業界の現状と展望」

*会場写真は2018年
総会講演より



橋本氏プロフィール

1987年3月京都大学農学部を卒業し、日経マグロウヒル社（現、日経BP社）に入社。医学雑誌の日経メディカル編集部、医療経営専門誌の日経ヘルスケア編集部、ビジネス誌の日経ビジネス編集部などの勤務を経て、05年7月日経バイオビジネス編集長、06年1月日経バイオテク編集長、2013年1月薬剤師向け月刊誌の日経ドラッグインフォメーション編集長、2015年6月より現職。バイオ分野の報道には15年以上関わっている。

お申込み/お問い合わせ先 : くらしとバイオプラザ21 bio@life-bio.or.jp

2018年9月22日 ヒトゲノムを用いる実験教室

「私たちのDNA」

東京テクニカルカレッジで第13回「私たちのDNA」を開きました。教員、学生、福祉関係、生命倫理を学ぶ市民グループからの参加があり、今年は女性が多い講座になりました。自分の唾液から取り出したDNAを使ってAlu配列の有無を調べる実験を行いました。また、東京大学医科学研究所 安井寛特任准教授より、「がんゲノム医療について」というお話をうかがい、今日、実験で調べているゲノム情報ががんの治療に役立っていることがわかりました。（共催 東京テクニカルカレッジバイオテクノロジー科 協賛：特定非営利活動法人個人遺伝情報取扱協議会、バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社、特定非営利活動法人日本バイオ技術教育学会）



2018年10月13日・11月4日 サイエンスカフェコーディネーター研修生、大活躍！

6月10日に行ったサイエンスカフェコーディネーター養成研修会の受講生が、秋に行われたサイエンスカフェにコーディネーターなどとして参画しました。ことに、10月13日「ゲノム編集とカレーライス!？」（写真上）では、涙のないタマネギと普通のタマネギの食べ比べをしたり、11月4日「最新ゲノム編集のお話とワークショップ」（写真下）では、田の字法という多様な意見を吸い上げる手法を取り入れて、双方向性の高いワークショップを行ったり、受講生が大活躍しました。



2018年11月26日 コンシューマーズカフェ

「ゲノム編集 農林水産物をめぐる国内での規制について」

2018年11月26日、筑波大学 生命環境系 大澤良先生をお招きして第26回コンシューマーズカフェを開きました。初めにゲノム編集を含む「育種」全般に関するわかりやすいお話があり、環境省で検討されている、ゲノム編集技術を用いて作られる農林水産物の環境影響に対する考え方が説明されました。とてもわかりやすいお話だったので、生協、企業、教師、サイエンスコミュニケーターなど多様な立場の参加者は、ゲノム編集に関する予備知識のあるとないのかかわらず、共に考え、話し合うことができました。

2019年1月17日 学生動画コンテスト発表・審査会

「映画監督と一緒に動画でサイエンス・コミュニケーションに挑戦！」

2019年1月17日、ベルサール八重洲で学生動画コンテスト発表・審査会が開かれ、審査委員として参加しました（主催 日本モンサント株式会社）。3つの大学生・大学院生のグループがエントリーしました。大学生・院生は、7月に遺伝子組換え技術を中心とした育種について学んだ後、映画監督太田龍馬氏の指導のもと、作品を制作しました。発表会では審査委員・参加者の投票により、「育種は植物のコミュニケーション」というコンセプトで制作した「CRISPR」（写真下）が最優秀作品に選ばれました。



- ・最優秀作品「GRAND VINE AWARD」：
東京農工大学・早稲田大学のジョイントチーム「CRISPR」
- ・優秀作品「PREMIER VINE AWARD」：
神奈川工科大学 工学部 「TRANSFORMER」
- ・優秀作品「PREMIER VINE AWARD」：
横浜国立大学 環境情報学府 「YNU Nazunaers」



そしてまた遺伝子を送って、反応を見る

バイオカフェの



この頃



2018年10月4日SMBCパーク 栄
「新しいカンキツを目指して～
品種改良の最新技術」
農研機構 後藤新悟さん



10月13日新潟市科学館
「ゲノム編集とカレーライス!？」
大阪府立大学 小泉望さん



10月20日 集会所 indriya(弘前市)
「これまでに無かった新しい品種改良
のおはなしー弘前発 接ぎ木で品種
を改良する方法」
弘前大学 葛西厚史さん



10月21日愛知県図書館
「ゲノム編集で新しいタイ・フグを
作る」 京都大学 木下政人さん



11月4日ふじのくに地球環境史
ミュージアム「新しいおこめをもと
めて～従来の育種からゲノム編
集まで」 農研機構小松晃さん
SGブランチ岩崎博さん



11月11日千葉県立現代産業科
学館 「世界でひとつだけの花
～先端技術で創りだされるステキ
な新品种」
農研機構 佐々木克友さん



12月7日東京テクニカルカレッジ
「紙の顕微鏡～世界中の好奇心
を拡大するコミュニティ作り」
Foldscope Instruments, Inc.
井嶋穂実さん



1月26日 三鷹ネットワーク大学
「ブレンダーのつぶやき9」
サントリーマーケティング&
コマース(株)富岡伸一さん

ifia JAPAN2019

「ifia JAPAN(国際食品素材/添加物展・会議)」は、食品開発者を中心に、業界関係者が一堂に集う技術者のための専門展示会として1996年にスタートしました。くらしとバイオプラザ21は食の安全・科学ゾーンに2013年から出展し、2014年からは遺伝子組換え作物・食品、安全性、規制などをめぐるリスクセッションを企画・実施してきました。2019年度も以下のように企画中です。どうぞお出かけください。

日時 2019年5月24日午後 (詳細未定)

講師 明治大学農学部 教授 中島春紫氏

話題提供 「ゲノム編集技術を用いて作られる食品の安全性の考え方(仮)」



*会場写真はifia2018より

3.11を考えるキッチンサイエンス

2019年2月9日、多摩六都科学館でキッチンサイエンス「くるみだれと三色しらたまを作ろう」を行いました（協賛 一般社団法人SAVE IWATE 協力 武田薬品工業株式会社）。

これまで、くらしとバイオプラザ21ではアントシアニンという食品に含まれる色素が、環境が酸性かアルカリ性かによって、色が変わる性質を利用した「カラーマジックケーキ」という実験教室を行ってきました。今回は紫芋のアントシアニンの色の変化を利用した三色の白玉をくるみだれで試食するキッチンサイエンスでした。被災地復興のために設立されたSAVE IWATEの方がお持ちくださった和グルメを使いました。津波の被害や、SAVE IWATEが進めている「和グルメプロジェクト」についてのお話をうかがい、震災やその後のこと、私たちにできることについてみんなで考え、話し合いました。



学会発表

12月9日 日本サイエンスコミュニケーション協会 年会 口頭発表
「ロールプレイをとり入れたサイエンスコミュニケーション手法の開発」

講師派遣報告 2018年9月～2019年1月

- 9月25日～12月18日 東洋大学 板倉キャンパス
「サイエンスコミュニケーション特論」講義（全15回）
「サイエンスコミュニケーション演習」講義（全15回）
- 9月26日～2019年1月23日 神奈川工科大学「科学技術と社会」講義（全15回）
- 10月31日 くらまる塾 「マダイ・トラフグ養殖へのゲノム編集技術の活用に向けて」ファシリテーション
- 11月7日 くらまる塾 「ゲノム編集で金の卵を産むニワトリをつくる」ファシリテーション
- 1月25日 神奈川工科大学「バイオ製品科学」講義



会員特典

私たちの活動を応援して下さる協力(個人)会員を(1口 2,000円～) 常時募集中です。会員になるとイベントに関する情報が優先的に得られたり参加費が安くなることもあります。もちろん、バイオレター(紙媒体)もお届けします(2回/年)

編集後記：2013年度からの5年間、くらしとバイオプラザ21は、内閣府の戦略的イノベーションプログラム(SIP)「次世代農林水産業創造技術」の中でゲノム編集技術の社会実装を進めるコンソーシアムのメンバーとして、この技術の理解を市民に広めるためのツール作成、ゲノム編集をめぐるサイエンスコミュニケーションの実施と連携先のネットワーク構築を担当してきました。現在、この5年間に生み出された、ゲノム編集を含む育種について解説するスライドやアプリ、50回余りのバイオカフェのアーカイブをとりまとめたサイトを作成しているところです。2018年度は環境省と厚生労働省でゲノム編集を使った作物の環境影響や食品としての安全性に関する規制の検討が行われ、日本初のゲノム編集技術による農林水産物の誕生が期待されています。とはいえ新しい技術に対しては人それぞれの思いがあることでしょう。私たちの作るサイトが、いろいろな人が様々な立場でゲノム編集技術について考えたり話し合ったりするときに役立つことができたら幸いです。



特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21

<http://www.life-bio.or.jp>

編集 佐々義子・二瓶美郷

カット 中村典子

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町3-5-3

日宝茅場町ビル8階

電話：03-5651-5810 FAX：03-3669-7810

e-mail: bio@life-bio.or.jp

